

平成11年第3グループの募集があり、第2グループの応募で抽選に洩れた人、新たに申し込んだ人で6月から養成講座が始まりました。

6月18日から毎週金曜日午前2時間、午後2時間、8日で合計32時間の勉強の後炉端の会に登録されて、基本的には5年間のボランティアとしての活動開始となりました。

講座終了時に、ガイド中心の活動でなく囲炉裏での火焚きが中心の活動と判明してボランティアにならなかった人もいた。結果的に55名が、約10名/曜日の構成となった。

第3グループの募集は、第1グループの方達の5年の年期奉公明けの欠員補充が主眼だったが、退会する方が少なく、第1Gと第3G、第2Gの2グループ構成で、当番棟の割り付けが行われこれに従って活動した。棟の順番はほぼ2週間ごとに変わるが、第1Gが1週間、第3Gが1週間担当した。

炉端の会会員証が、養成講座を全日程受講し、「炉端の会」に登録した人に園長から交付された。平成11年9月1日からで割印があり、会員番号があります。私の場合20番です。

5年間の年期奉公と期間が示されたが、5年経過後なんの通達もなく、なし崩しで継続活動に入った。

平成17年4月に、4期、5期の方々の参加があり、1~3Gのグループ毎の活動でなく、曜日班ごとの活動に変わり、第3グループとしての活動は終了した。グループ名はなくなり期の呼び方に変わりました。

## 活動

9月から活動開始。最初の当番棟は岩沢家だった。何年たっても思い出します。

担当曜日と土日班の応援で、棟のスケジュールに従って活動した。

火焚きと室内外の清掃がメインで、説明は、聞かれたら答える。わからない事・曖昧なことは説明しない。(学芸員ではないのだから。誤った情報を伝えない。)民家の保全が中心だから、云われたもの以外の什器・民具などには手を触れない。

室内での飲食は不可。屋外も決められたところのみで飲食。

## 定例会

グループ毎に実施し、グループ内でのつながりは強いものになった。

交通費も、食事代も金銭的報酬は無く、定例会での学習会が、園からの唯一のリターンである。(ボランティア開始時に予算化しなかったので、前年度並みの予算というしきたりに縛られて金銭面の裏付けのある報酬はできなかった。元三輪園長が残念がっていた。)

曜日班別構成になったところで定例会は一本化された。

従来からの第1G、第2Gでの活動経過から、慣習的にルールが出来ていたにもかかわらず、新規参入・若さの至らなさ・怖いもの知らずで種々の提案を行った。ほとんど実現を見なかった。

心掛けていることは、民家の保全、来園者に楽しいひと時といい思い出を！！

私たちは、民家園から何を学ぶのか？ 民家園に何を提供できるのか？ 毎日が学習です。

年を重ねると、惰性に流れがちですが、皆さんのサポート役に留意します。

民家園のホームページに記載されている日本民家園の使命には、

『 日本民家園は、市民の文化・学術・教育の向上に寄与するため、つぎのを行います。』

1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。
2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。
3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。
4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館を目指します。』

と書いてあるので、

活動について迷った時は、この使命に戻って考えて行動すればよいのだと思っています。

添付資料：養成講座日程表

木下園長が民俗資料の講義を担当されていました。

2015年2月16日

日本民家園ボランティア養成講座					
日程表					
実施日		午前(10:00~12:00) 内容	午後(13:00~15:00) 内容		
6月	18日(金)	オリエンテーション 園の内容 杉田	園内見学(1)	杉田・中川	
	25日(金)	炉端の会について 杉田	民家について(1)	野呂瀬	
7月	2日(金)	民家について(2) 野呂瀬	民家について(3)	野呂瀬	
	9日(金)	園内見学(1) 三輪・野呂瀬	園内見学(2)	三輪・野呂瀬	
	16日(金)	民家について(4) 三輪	土間・納戸・階段について	三輪	
	23日(金)	炉端の会見学 杉田	民俗資料について	三輪	
	30日(金)	民俗資料について(1) 木下	民俗資料について(2)	木下	
8月	6日(金)	班編成・会員証の交付 杉田	会員との交流会	杉田	
平成11年民家園養成講座資料からの復刻					